

- 1 主題名 精一杯生きる 3－（1）生命尊重
- 2 資料名 口で歩く人 （日本標準）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

今、生命尊重の心情を育むことは、さまざまな差別を越え、人々が共生して生きる価値を学ぶために大事なことである。互いに支え合って生きるために、自分にできることを考え進んで実行しようとする態度を育てたい。そのため、障がい者の自立支援という視点ではなく、自分が生きていく上で何を大切にしていっていいのかという視点で本資料をとらえ、生命尊重の心情を育てたい。

(2) 児童について

(略)

(3) 資料について

本資料は、「骨形成不全症」という病気に負けずに一人旅をする親友の姿から、ボクが生きていく勇気をもらう話である。この親友はいろいろな人との出会いを楽しみ、人に助けってもらわなければならないときは積極的に助けを求めて精一杯生きている。人が生きることの意味や協同して生きていくあり方を、「ボクの親友」の姿を通して気付かせたい。

(4) 指導について

もし、自分がベッド式車いすに乗って一人旅をするようになったら、どんな気持ちになると思うか想像させる。多大な不安や葛藤を想像させた後、資料を読み聞かせ、「ボクの親友」はそれでもなぜ一人旅をしようとしたのか話し合わせる。人とのつながりを積極的に求めながら、不安や葛藤を乗り越えて前向きに精一杯生きていこうとしている「ボクの親友」の生き方に共感させたい。終末では、車いす体験で交流した中村収さんに、前向きに精一杯生きることの大切さや、自分を支えてくれた人とのつながりの大切さなどを語っていただいたVTRを視聴させることで、児童がこれからも仲間と協力し支え合って、みんなで学校生活を送っていこうとする意欲を高めたい。この道徳的価値を自分とのかかわりでとらえることで、道徳的実践力を培い、本校の研究主題「未来につながる力をもつ子ども」を育成していくことになると思う。

4 本時のねらい

自分の命を精一杯生きていくことの意味を大切にして、互いにつながり支え合って生きていこうとする心情を養う。

5 準備物

「ボクの親友」の写真，場面絵，ワークシート，VTR

6 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気付く	<p>1 手足の不自由な人が，一人旅をする様子を想像する。</p> <p>○もし，自分の手足が不自由で，ベッド式車いすに乗って一人で旅をしないといけなくなったら，どんな気持ちになるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で乗り物に乗って，無事にたどり着けるか。 ・みんなからじろじろ見られるといやだな。 ・ご飯やトイレは大丈夫かな。 ・頼んでも断られたらどうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験でわずかな段差でさえ一人では上れなかったり，トイレのドアの開閉に大変苦勞したりしたことを思い出させて，寝たままのベッド式車いすでの一人旅の無謀さを想起させる。 ・「ボクの親友」の写真を掲示し，見知らぬ人に助けを求めながら旅することの大きな不安や戸惑いを想像させる。
考える・深める	<p>2 資料「口で歩く人」を読んで話し合う。</p> <p>○「ボクの親友」は，自分だけでは車いすを動かすこともできないのに，なぜ一人で旅がしたかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家に閉じこもってたくない。 ・一人でも多くの人に出会いたい。 ・自分の力でできる精一杯のことをして，みんなと同じように生きたい。 ・自分のことをみんなに知ってほしい。 <p>◎「ボクは生きていく勇気がわいてきた」のは親友のどんな姿（生き方）を見たからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体が不自由でも困難なことに挑戦している姿。 ・障がいのある体を恥ずかしがらずに，たくさんの人に積極的に声をかけている姿。 ・みんなつながって，支え合って生きていることを身をもって教えてくれる姿。 ・自分のできる精一杯のことをしている姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをワークシートに書かせ，それをもとに話し合わせる。 ・「ボクの親友」がなぜハンディをおして，外に向かって積極的に生きていこうとしたのか，また，なぜ100人以上も人が助けてくれたのか考え，人に助けてもらわなければならないときは遠慮せずに助けを求めて行動する「ボクの親友」の生き方に共感させたい。 ・写真の中の「ボクの親友」の笑顔と，「ボクの親友」から頼まれて嬉しそうに車いすを押す通りがかりの人の様子から，児童の中にある“障がいのある人はかわいそう”という思いや“周りに迷惑をかけるのはよくない”という思いを払拭したい。
見つめる	<p>○「ボクの親友」の生き方をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいがあっても気にせず明るく生きる姿がすてきだ。 ・わたしも自分のできることを精一杯やりたい。 	<p>☆登場人物の生き方から，置かれている立場の中で精一杯努力する大切さについて感じ取ることができたか。</p> <p>（児童の発言，ワークシート）</p>
高め	<p>3 車いす体験で交流した中村さんからのメッセージ（VTR）を視聴して，今日の授業で感じたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人を支えたり支えられたりするの意味，生きるというのはどういうことかを，児童自身が感じたままの言葉で書かせたい。

7 授業の観点

・車いす体験をもとに，ベッド式車いすで一人旅をする大変さを想像させたことは，それぞれ置かれている立場の中で精一杯生きていくことの大切さを知るために有効だったか。